

がくもんじやま
「学文字山」と
「藤原源蔵清正」

天つ風
吹飯の浦に居る田鶴の
などか雲居に
帰らざるべき



この歌は、平安時代の有名な
三十六歌仙のひとり「藤原源蔵清正」が詠んだ歌である。

藤原源蔵清正は、紀伊守として紀州に赴任したことがあり、
その関係で、岬町にも滞在したことがあるという伝承が残っている。
旧深日ゴルフのコースの中に、彼の住居跡らしいところがあり、
古井戸もあったといわれている。

「泉州深日神社仏閣古録」にも「藤原清正配所旧蹟、在源蔵山云云」とある。
この源蔵山の近くに「学文字山」がある。

「文字を学ぶ山」。

この山のふもとで、子どもらに仮名や漢字を教える塾のような家があったと考えても
おかしくはない。

お師匠さんが藤原源蔵清正であったと考え、「源蔵山」、「師匠谷」の地名と
「藤原源蔵清正」が、近くの「学文字山」と、ひとつの線につながってくるのである。
(「竹内三郎著 みさき歴史散策」)